

彙報

○史學研究會

例會 六月廿二日(土)午後一時半より京都帝大文學部第十八教室に於て開催左の講演があつた。午後五時閉會。

一、ゴシックにおける自然主義 鈴木 成高氏

一、歴史的世界 高坂 正顯氏

○西洋史讀書會

例會 昭和十年度第二回例會を六月六日午後六時半より樂友會館に於て開催、左二君の讀書紹介あり、十時頃散會。出席者時野谷、原兩教授、鈴木、村田、井上三講師を初め二十七名。

一、L. v. Ranke; Deutsche Geschichte im Zeitalter der Reformation. 二回生 高山 保則君

一、H. Sée; Science et philosophie de l'histoire.

文學士 中山 治一氏

○熱河省赤峯紅山後發掘

本年五月末より一ヶ月間、濱田教授、島村孝三郎氏、京大醫學部三宅講師、島田旅順博物館主事、水野東方文化學院京都研究所々員、三上次男氏、赤堀英三氏等の手によつて赤峯の紅山の遺跡の發掘が行はれた。

發掘調査せられたものは、西方文化の波及を語る彩色土器關係遺跡、中に伸展葬の遺骨を收むる花崗岩又は玄武岩を以てなされたストーン・シスト及び同關係の住居趾等である。出土した彩色土器は、支那に於ける彩色土器類、特に河南、山西のものに類似を示し、しかもこの地獨特の文様器形のものをも有する如くである。石槨墓よりは瓦甎や銅製品が出土し、人骨は古代に於ける塞外民族の人種決定に資する處大なるものがある。今次發掘せられた遺品を列記すれば、

彩色土器關係遺跡——彩色土器、褐色土器、貝輪、有孔石斧、磨石耜、石磔、細石器、獸骨等

ストーン・シスト——素燒土器(人骨頭部より)、小玉、有孔石斧、骨鏃、圓形銅飾板、銅劍、銅鏃、貝貨、

形具製品等

住居趾——ストーン・シスト出土のものと同種の土器
表面採集——彩色土器、褐色土器、瓦鬲脚、漢式土器、
石器、銅斧鑄型等
(中村)

○地理學談話會

例會(第二回) 六月八日於地理學實習室

一、水産地域に關する二三の問題 山崎 修氏

一、章學誠とその方志學 室賀 信夫氏

一、岐阜市近郊の農業地帯 朝永陽二郎氏

例會(第三回) 六月二十二日於地理學實習室

一、砂丘輪廻の一過程 庄司 久孝氏

一、メッキング日本都市景觀 小葉田 亮氏

一、信濃に於ける首邑の變遷 米倉 二郎氏

例會(臨時)

一、臺灣の話 川上 健三氏
(安藤)

○國史學會大會

本年度春季大會は六月一日午後一時、樂友會館に於て

開催、來會者約二百名、大學院學生山根徳太郎氏司會の
下に左の講演及研究發表があつた。

近世儒者の古代觀 岩城 隆利氏

佃に就て 田井 啓吾氏

拜金宗に就て 有働 研三氏

近世に於ける人身賣買 田中 達男氏

東大寺油倉 清水 三男氏

源 賴 朝 牧 健二氏

本能寺變前後 西田直二郎氏

尙會場には右講演に關する史料として福知山御靈神社所
藏の明智光秀書狀並控書、並に人身賣買に關する文書等
の展觀があつた。次で六時より晚餐會を開き出席者約三
十名歡談を共にした。

○讀 史 會

六月十二日午後六時、於樂友會館。

岐阜地方見學旅行談 二回生 土井 彬氏

大和靈山寺の古美術に就て 二回生 村山 修一氏

中世の御燈に就て 三回生 栗津 惠觀氏

異安心に就て 三回生 稻葉 慶信氏

薩摩藩封建社會の特質 大學院學生 宮内 信美氏

楠木正成の一書狀に就て 中村 直勝氏

○民俗學會

本年度第一回例會、五月九日午後七時より樂友會館に於て開催、入浴中の赤松智城博士を迎へて「朝鮮の巫俗に就て」の談話を聴く。

第二回例會 六月十一日 午後七時 於樂友會館

舞に就て 西田直二郎氏

十六ミリ映畫三河鳳來寺及田峯田樂供覽

尙本會にては五月十五日夜には大津市山中町樹下神社の祭禮を、六月五日夜には宇治縣神社のあがた祭を、同二十四日には伊勢別宮伊雜宮御田植を夫々見學した。

○Paul Pelliot 教授の來學

佛國支那學界の耆宿として、將た敦煌千佛洞に於ける古書古文書の將來者として、英國の Aurel Stein 氏と並んで世界的に知らるる College de France 校教授 Paul

Pelliot 博士は、英國皇帝陛下御成婚二十五年を記念して London にて開催せらるべき東洋美術展覽會準備に對する佛國政府の命を衝み、本年六月中旬夫人同伴來朝、約一週間許、東京に淹留の後、同月十九日午後十一時に入浴せられ、洛東三條蹴上、九條山の日佛學館に旅裝を解かれた。京都帝國大學文學部東洋史研究室に於ては遠來の珍客を勞ふべく、羽田博士専ら衝に當られ、京都驛頭にては鴛淵講師、那波助教等出迎へを爲した。二十二日午後には大學の學賓として來學、先づ本部總長室にて總長以下と挨拶の交換あり、次で文學部陳列館を訪ひ、梅原助教の案内にて階下室の陳列品を觀覽し、次で同館貴賓室に陳列したる東洋史研究室並に京大附屬圖書館所藏の稀觀書珍資料を數十點賞觀した。東洋史研究室よりは世界に誇るべき珍資料なる成吉思汗聖旨牌をはじめ、五體清文鑑、乾隆銅版得勝圖原版、宋會要寫本、回紇文々書等を陳し、附屬圖書館よりは宋槧本莊子、同版畫一元龜、朝鮮本龍龜手鑑、金澤文庫舊藏本白氏文集、延久五年鈔本史記孝景本紀、古鈔本藥字抄、香字抄、草稿本

七經孟子考文山井鼎著等を列ねたれば、狩野、新村、羽田諸博士と胸襟を開いて學術的談論風發、教授本年五十九歳と謂ふと雖も、英氣壯者を凌ぎ、一問一答、一語一言、さすがは支那學の耆宿たるを思はしめた。同日午後六時より京都帝國大學、東方文化學院京都研究所の合同主催に係る教授夫妻招待會は京都ホテルにて開かれ、狩野、松本、小川、矢野、今村の諸名譽教授、新村、羽田、鈴木の諸教授以下支那學關係の助教講師等約四拾名出席。松井總長の歡迎の辭、Pellio教授の感謝の辭、並に特に故内藤博士を偲ぶの辭あり、午後十時過散會した。同教授の滯洛は僅に六日間に過ぎざりしが、東方文化學院京都研究所をはじめとし、羽田博士、梅原助教の東道にて住友男爵家兩禪寺、富岡家、守屋家、内藤家相樂郡等に就きて蒐藏の古銅器鏡鑑古鈔本舊槧本稀觀資料等を閱覽したのみならず、大雨を侵して奈良に到り、遍く古社舊刹の寶物を探り、殆んど席の暖まる暇も無かつた程であつたが、二十五日午前には特に鹿谷法然院にて營まれたる故内藤博士一周忌の法要に參列して遺像に燒香、墳塋に

拜禮され、同日午後二時、羽田博士等に見送られて京都驛出發同衣神戶出帆の汽船で一路母國へと急がれた。碩學の來學に一場の學術講演は最も望まほしきことであつたが、何分時日の餘裕無く遂に壇上に於ける風手に接するを得なかつたのは残念であつた。

○東洋史談話會

第四十六回例會 六月二十八日(金)帝大學生集會所。

滿洲調查旅行談

羽田 亨教授

五月二十三日奉天着後、契丹其他の諸活躍地域の踏査と未詳碑文の確認、新史料の發見を主目的に錦縣義縣朝陽牛泉熱河の踏査を行ひ、更に同行の小川秋貞若城外山四學士を赤峰烏丹城調査に残して、單身北滿吉林を巡り松花江河流に乗じ、金得勝陀碑研究等に資した、其間三十二日。地勢調査の上には安祿山の亂其他に就き多大の收穫があつたが、碑文拓本の蒐集にも得る所極めて多かつた。就中義縣の北魏景明三年の碑の文中慰喻□丹使の不明字が從來「契」と考へられてゐたのを、今般正く「奚」と拓出し得たのは興味深く思つた。又熱河方面出土

の綠釉陶器に游牧民の水入れ革袋を摸したものがあつたが、之は遊牧より定住への移行を考へる上に重要な一材料である。

會報

○史林總目索引の刊行

大正五年本誌創刊以來會員諸氏の不斷の御援護により本誌を以て第二十卷完結いたしましたについては評議員會に於て「史林總目索引」(附史學研究會講演集史的研究續史的研究總目索引)を刊行し、多年の御援護に酬ゆるため本會より會員諸氏に贈呈することを議決し、目下着々印刷中につき十月中にはお送り出来ることと思ひます。但會務の都合上會費完納の方に限りお送りすることになりましたので會費拂込みのおくれてゐる方はこの際至急發行所京都市西洞院七條南入内外出版印刷株式會社(振替口座三二九五五番)宛御拂込み願ひます。尙會員外で希御望の方には定價を以てお頒ち致します。

○會員動靜

入會

廣島市廣島文理科大學東洋史研究室

濱上隆一氏

(鴛淵一氏紹介)

京都市内資洞ミックニアパート内

本多龍哉氏

(中村一良氏紹介)

東中市豊島區池袋三丁目一六三六神山方

日野開三郎氏

仙臺市東北帝大法文學部西洋史研究室

趙義氏

仙臺市米ヶ袋廣町二丁目

平塚博氏

京都市上京區寺町今出川上ル四丁目鶴山町育英寮

天野義壽氏

(以上鹽見高年氏紹介)

轉居

京都市左京區修學院大塚町二六

岩田稔郎氏

姫路市八代四七三ノ一

東郷松郎氏

京都市倭城臺官舎三號

大谷勝眞氏

寄贈交換圖書雜誌目錄

福岡縣史料 第三輯

福岡縣

中村直勝著 吉野朝史

著者

竹上直次著 難波古道の研究

湯川弘文堂

内藤藤一郎著 四天王寺と美術

〃

唯一神道名法要集

國民精神文化研究所

中古に於ける郷土の土地制度研究

大倉桑馬著 伊豫の新居氏

史學雜誌 四六ノ七、八、九

歴史地理 六六ノ一、二、三

史學研究 七ノ一

史苑 九ノ三

史學 一四ノ二

人類學雜誌 五〇ノ六、七、八

五〇ノ第四、五、六、七、九、十附録

考古學雜誌 二五ノ六、七、八

文化 二ノ六、七、八、九

史迹と美術 五六、五七、五八

郷土信濃 四ノ六、七、八

社會經濟史學 五ノ四、五

西洋史研究 七

龍谷史壇 一六

青丘學叢 一九

經濟論叢 四〇ノ六、四一ノ一、二、三

京大經濟學會

國學院雜誌 四一ノ六、七、八、九

社會學徒 六ノ六、七、八、九

南方土俗 三ノ三

國學院大學社會學徒社
南方土俗學會

皇學 三ノ二

國民精神文化研究所々報 七

國民精神文化月報 一

地理學年報 三

瓜茄 一

國立北平圖書館々乘 八ノ四

東方學報 東京第五册續編

神宮皇學館々友會
國民精神文化研究所

地理學年報編輯所

奧村伊九良

國立北平圖書館

東方文化學院東京研究所